

## 令和2年度 学校経営計画及び学校評価（案）

## 1 めざす学校像

・主体的で挑戦心にあふれ、且つ、思いやり・気配りのできる生徒の育成 「Challenge & Hospitality」=登美高生は「強いから優しい」

「高めよう自分力、開こう未来への扉」をスローガンに、授業や行事・部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、一人ひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす。

1. 勉強と部活・行事の両方本気で取り組む学校
2. 希望する進路を実現する学校
3. 地域から愛され信頼される学校ー開かれた学校

## 2 中期的目標

## 1. 授業の充実と進路の実現

(1) 「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む

- ① 授業アンケートを軸にしたPDCAサイクルの徹底による授業改善を進める。
- ② 教師力（教科指導力+人間力）を向上させる。  
ーこれまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組みを進める。  
ー教育センターや他校種との連携、教育産業の活用を図る。
- ③ 「着想・展開・発表する力」を育む取組みを進める。  
ーアクティブ・ラーニングの手法を取り入れた能動的な学習法を追求する。  
ー発表の舞台を作る。（学級読書会、英語プレゼン大会、情報プレゼン発表など）

※学校教育自己診断（生徒）における「授業はわかりやすい」の肯定率（H29：69% H30：68% R1：75%）を、R4年度には78%以上をめざす。

(2) 進学実績の向上

- ① 「授業・自学自習（≒週末課題）・講習」の一体化と充実を図る。
- ② 「自学力」の育成ーもっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。
- ③ 「国公立志望・看護医療（公務員）希望」ー国公立進学希望者の進路を実現させるとともに生徒の細やかな希望に応える体制づくりを行う。
- ④ 学習指導要領改訂、高大接続改革に向けた準備を進める。

※共通テスト受験者数（H29：156名 H30：150名 R1：139名 → R4年度・150名）、国公立現役合格者（H29：16名 H30：8名 R1：8名→R4：20名）、関関同立現役合格者（H29：86名 H30：69名 R1：64名→R4年度・100名）をめざす。

## 2. 主体性・挑戦心と思いやり・気配りの精神の涵養

(1) 「主体的・挑戦的に行動する心」を育成するとともに、「人を思いやることの大切さ」を実感させる。

- ① 勉強と部活・行事の両立 ー学習・生活習慣・多様性・挑戦心の育成。
- ② 生徒会活動の自主運営 ー学校祭等の自主企画・運営を行い、生徒に多様な集団活動運営で味わえる成就感、達成感を体験させる。
- ③ 国際理解の推進 ー国際交流事業に取り組む。
- ④ 人権尊重教育の取組み ー多様な社会の中で、視野・視座の上がる教育を行い、思いやり・気配り力の醸成も図る。

※学校教育自己診断（生徒）「生徒会活動ホームルーム活動は活発である」の肯定率（H29：74%、H30：76%、R1：83%）をR4年度に85%以上をめざす。

※学校教育自己診断（生徒）「人権や男女平等について学ぶ機会がある」の肯定率（H29：66%、H30：69%、R1：82%）をR4年度に85%以上をめざす。

(2) 教育相談体制の充実

- ① SCを積極的に活用し、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。

※学校教育自己診断（生徒）「悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い」の肯定率（H29：76%、H30：77%、R1：81%）を、R4年度には85%以上をめざす。

## 3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携

(1) 機能的な組織運営と学校情報の積極的発信

- ① チームワーク・フットワーク・ネットワークを生かした機能的な校務運営に務める。
- ② ミドル・アップダウン・マネジメントを有効に機能させる。また、積極的なOJTを通じて次代を担うリーダーの育成に努める。
- ③ 学校説明会、HPなどを活用して、積極的な情報発信・コミュニケーション強化に努める。
- ④ 学校運営協議会、PTA、同窓会との連携を強化する。

※学校教育自己診断（教職員）「学校行事や校務分掌等においてPDCAが実施されている」の肯定率（H29：70%、H30：72%、R1：61%）をR4年度に70%以上をめざす。

(2) 地域連携の推進

- ① 早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などへの積極的な参加

※学校教育自己診断（生徒）「授業や部活動などで保護者地域の人々と関わる機会がある」の肯定率（H29：49%、H30：48%、R1：56%）をR4年度に60%以上をめざす。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和2年度 11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】肯定回答平均84%（R1:79%、H30:74%）と肯定度が向上</b> ・教え方に工夫を凝らしている先生が多い83%（R1：69%、H30：60%）・授業はわかりやすい84%（R1:75%、H30:68%）先生は生徒の意見をよく聞いてくれる83%（R1:74%、H30:70%）と向上。ICT/グループウェア導入での肯定度が上がっている。人権について学ぶ機会がある90%、安心して学校生活を送れている92%、学校へ行くのが楽しい88%と高位安定している。一方で保護者や地域の方と関わる機会がある51%（R1:56%）、部活動に積極的に取り組んでいる82%（R1:84%）とコロナの影響もあり改善を期す。</p> <p><b>【保護者】肯定回答平均83%（R1:81%、H30:79%）と肯定度が微向上</b> 家庭で学校のことについて話をする78%（R1:73%、H30:73%）1日1時間以上家庭で学習している54%（R1:47%、H30:45%）保護者連絡ネットは役立っている96%（R1:79%、H30:80%）等、コロナの影響も伺える項目が向上。登美丘高校に進学させて良かった92%、学校には仲の良い友達がいる93%、学校に行くのを楽しみにしている84%は安定。</p> <p><b>【教職員】肯定回答平均86%（R1:85%、H30:86%）と肯定度は横ばい</b> 学習到達度の低い生徒や学習意欲の低い生徒への指導が行われている81%（R1:89%、H30:90%）家庭での学習を充実させる工夫をしている77%（R1:85%、H30:80%）と、オンラインも交えた個別最適の学習指導の課題感が伺えた。</p>	<p><b>第一回（6/23）</b> ○休校中のオンライン授業の内容等について 休校期間中、オンラインを中心に工夫されていることはよくわかった。密に配慮しながら対面の機会も考慮してほしい。良い改善を今後も期待したい。 ○進路について 経営計画において、多様な進学先に対するきめ細やかな対応をしていただくのは賛成だが、一方で難関大学の進学先は気になる。そこを希望する生徒を合格に導いてほしい。</p> <p><b>第二回（9/15）</b> ○オンライン体制の構築について 推進費の獲得もあり、オンラインができる体制になっていることは良い。 ○学校際について 学校祭について、たくさんの笑顔に触れられて嬉しかった。様々な制約の中で、どう自分たちを發揮できるか、楽しんでほしい。</p> <p><b>第三回（1/26）</b> このコロナ禍により、多くの制約も受けたが、新たな「何か」を始める良いきっかけになったのではないかと。本日伺った新たな取り組みをぜひ発展して行ってほしい。 「自制心・回復力を備え、主体的で挑戦心にあふれ、且つ思いやり・気配りのできる」という生徒が育つ環境づくりを期待したい。</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 授業の充実と進路の実現	<p>(1)「わかる授業、学力がつく授業、進路に結果を出す授業」に取り組む</p> <p>(2)進学実績の向上</p>	<p>(1) ア・進路希望の実現につなげる組織的な授業改善 5月 個人・教科による授業改善テーマ設定 7月 第1回授業アンケートの実施 8・9月個人・教科から振り返りシートの提出 11月 公開研究授業 12月 第2回授業アンケートの実施 1月 個人・教科から振り返りシートの提出 2月 成果発表 コミュニケーションを密にし学校全体の授業力の向上をめざす。 イ・ICT機器を整備し、教材の共有化をすすめ、教員の業務負担の軽減を図る。 ウ・英語プレゼン大会を1年で実施。情報プレゼン発表を充実させ、ビジネスアイデア甲子園入賞をめざす。</p> <p>(2) ア・「授業・自学自習（≒週末課題・講習）」の一体化と充実を図るとともに、家庭学習の時間を増やす。 イ・「希望別進路指導」の年間活動計画の作成。 ・進学実績の向上を図る。 ウ・学習指導要領改訂、高大接続改革に備えた取組を進める。</p>	<p>(1) ア・生徒自己診断「わかりやすい授業」77% (R1:75%) ・授業アンケート質問「知識や技能が身についた」 学校平均3.21 (R1:3.19) ・生徒自己診断 「教え方に工夫」71% (R1:69%) 「発表する機会」80% (R1:78%) イ・ICT機器の使用頻度及び質の向上 ウ・英語プレゼン、情報プレゼンの取組みの内容を向上させる</p> <p>(2) ア・週末課題講習の実施状況 ・保護者自己診断「1時間以上の家庭学習」50% (R1:47%) イ・ex. 国公立の学年別活動内容を向上させる ・共通テスト受験者140名以上 (R1:139) 国公立現役合格者12名以上 (R1:8名) 関関同立現役合格者80名以上 (R1:64名) 産近甲龍現役合格者120名以上 (R1:118名) ウ・大教大コンソーシアムに参加</p>	<p>(1) ア・わかりやすい授業 84% (○) (1年2年3年) (78%・88%・87%) ・(知識や技能が身についた) 学校平均3.28 (○) ・「教え方に工夫」83% (○) ・「発表する機会」84% (○) イ・ICT機器の使用頻度及び質の向上 オンライン授業委員会を発足、学習支援クラウドサービス・グループウェアを駆使、休校時及び休む生徒にオンライン授業を行う体制となる (◎) ウ・英語プレゼン大会2/4 予定 ・情報プレゼン大会大主催ビジネスアイデア甲子園で学校賞受賞 (○) (2) ア・「1時間以上」54% (○) 週末課題は17回、講習は15講座開催、学習支援クラウドサービスの利用で授業・自学の一体化が進んだ (HR、授業クラスで301クラス稼働) イ・国公立集会 (1年9月44人2年10月34人3年8月24人10月19人)、看護医療・食物栄養・薬学志望者集会 (1年10月45名) 看護希望者集会 (2年9月26名) 看護・医療・栄養系希望生徒の相談会 (2年10月27名) ・共通テスト現時点139 予定 [139] (○) ・国公立現役合格 8名 [8] (○) ・関関同立現役合格現時点47名 [64] (△) ・産近甲龍 (148名) [118] (○) ウ・大教大コンソーシアム参加17名 (○) コロナ禍での情報提供強化のためHP 進路専門ページ12月末時点49本の情報提供及び、保護者説明会の入場制限を鑑み、説明会を動画サービスで保護者送信する等情報の質量向上を図れた (○)</p>
2 主体性・挑戦心と思いやり・気配りの精神の涵養	<p>(1)「主体的・挑戦的に行動する力」を育成するとともに、「人を思いやることの」を実感させる</p> <p>(2)教育相談体制の充実</p>	<p>(1) ア・生指部と学年団の連携により、朝の登校指導を強化し、遅刻を減らす。 イ・生徒会活動の自主運営に取り組む。(学校祭等の行事) ・策定した部活動に係る活動方針に則り、計画的に取り組む。 ウ・宮古島修学旅行、国際交流事業の実施。 エ・計画的な人権尊重教育に取り組む</p> <p>(2) ア・学年団会議等で生徒の情報交換を密にし、SCとの積極的な連携を図る。</p>	<p>(1) ア・遅刻総数の5%削減 イ・生徒自己診断「生徒会・HR活動が活発である」84% (R1:83%) ウ・修学旅行生徒満足度90%以上に エ・人権学ぶ機会84% (R1:82%)</p> <p>(2) ア・生徒自己診断「親身になって応じてくれる先生が多い」83% (R1:81%)</p>	<p>(1) ア・2学期末遅刻回数604 [1001] (○) イ・「生徒会HR活動」91% (○) 公式SNS、休校中の新入生説明動画、学校祭の取組み等主体的な活動が評価される ウ・修学旅行2月下旬に関西地区にて予定 エ・「人権学ぶ機会」90% (○) 女子のストラックス導入、君づけ呼称→さん付け呼称に統一。 (2)「親身」88% (○) グループウェアを5月から導入細やかなコミュニケーション実施</p>
3 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携	<p>(1)機能的な組織運営と学校情報の積極的発信</p> <p>(2)地域連携の推進</p> <p>(3)働き方改革に対する取組み</p>	<p>(1) ア・学年団と分掌等の連携強化を図り、会議時間の短縮、業務の効率化に取り組む。 ・前年度の総括に基づき、「PDCA」サイクルを意識して回していく。 イ・OJTを重視し、若手教員の育成を図る。 -「インターメディエイトセミナー」、「10年研」を連動させる -広報活動への積極的な参画 ウ・若手教員の経営参画意識を高めるための座談会を開催する。 エ・HPの内容を充実させ、アクセス数の更なる増加をめざす。 オ・PTA、同窓会との連携を強め、創立100周年 (R5年) に向けた準備を進める。</p> <p>(2) ア・地域活動への積極的参加 早朝あいさつ運動、地域清掃、図書館活動、地区文化祭などの取組みに参加し、地域の活性化に貢献する。</p> <p>(3)ア スクラップアンドビルドの実施</p>	<p>(1) ア・教職員自己診断「情報交換」78% (R1:76%) 「PDCA」67% (R1:61%) イ・各OJTの取組み参加人数10名以上 (R1:8名) ウ・座談会を4回以上開催 エ・HPの内容充実とアクセス数の20%増 (R1:11万回) オ・記念事業の計画案の策定と運用</p> <p>(2) ア・生徒自己診断「授業や部活動で保護者や地域の人々に関わる機会がある」58% (R1:56%)</p> <p>(3)ア 改革事項に対し、「やらないこと」を決め時間短縮を図る。</p>	<p>(1) ア・「情報交換」68% (△) 「PDCA」68% (○) ストラックスの導入で情報交換頻度高まったが、コロナ禍で新しいことの挑戦が数多く行われたことで消化に時間はかかった感がある。 イ・休校中授業動画作成、グループウェア・学習支援クラウドサービス等の取組みと発信で、経験年数の少ない教員が、ある領域で学校をリードできた。 ウ・現在3回。予定通り。 エ・12月末17,015回48%増 (○) HPリニューアルに加え内容 (TOMIOKAMOVIE・休校中オンライン学校体験、TOMIOKANOWの即広報等) も、大きく向上した。 (2)「保護者や地域と交わる」51% (△) コロナ禍で、各種行事中止、次年度に巻き返し期待 (5月区民祭りの中心的役割を生徒が行う予定。100周年懸垂幕作成・地域に広報強化。 (3) グループウェア職員会議・(推進費獲得による) タブレットの教諭配布でペーパーレス職員会議など働き方改革が進んだ。</p>